のご協力をいただいています。「新病院に期待しています。僅かですがカンパします」「住みよいまちづくりの為に微力ながら協力します」「住民のための病院として期待しています」新病院への期待のメッセージが募金と共に寄せられています。

建設募金運動は2020年3月までの計画です。5万人の京都民医連全ての職員、共同組織の皆さんからの協力をいただくことを目標に掲げています。引き続き事業所・共同組織での募金運動へのご協力を宜しくお願いします。

京都保健会社会健康医学福祉研究所（保社研）活用たより

所長　小泉　昭夫

研究所の開所式が6月に行われほぼ5か月半が過ぎました。この間、研究所は様々な課題に取り組んでまいりました。研究所の活動内容を、職員、共同組織の皆さんと共有し皆さまからのフィードバックいただくことで、研究所として役割を果たして行きたいと考えています。

○「民医連職員ジェネラリスト育成コース」を実施しました

京都大学医学研究科社会健康医学（SPH）と共同して、人材育成のための教育及び専門性の向上を目的とし「京都保健会ジェネラリスト育成コース」を実施しました。この研修は、現在の保健福祉医療をめぐる諸課題を正確に捉えたうえで、課題の解決に求められる能力開発を提案できる素養の獲得を目指し、2018年10月より講義7回、実習3回の全10コースが行われました。

今コースは、次世代を担う医師、看護師、理学療法士、事務と多職種で構成された12名が受講しました。京都大学からの講義は「保健医療総論」「疫学・統計学」「保健医療政策」「行動医学」「健康危機管理・医療安全」「組織経営・管理・人材育成」と多岐に渡り、実習では、講義での学びを地域や事業所の課題に手繰り寄せ、「2040年以降を視野に、事業所のある地域での医療を守るための自分の考えを提案する」課題に取り組みました。約2ヶ月のタイトなスケジュールでしたが、受講生が学びや経験を今後事業所で生かす能力開発の一助となったと確信できる育成コースとなりました。